

# 川崎市公文書館だより

~Kawasaki City Archives News~

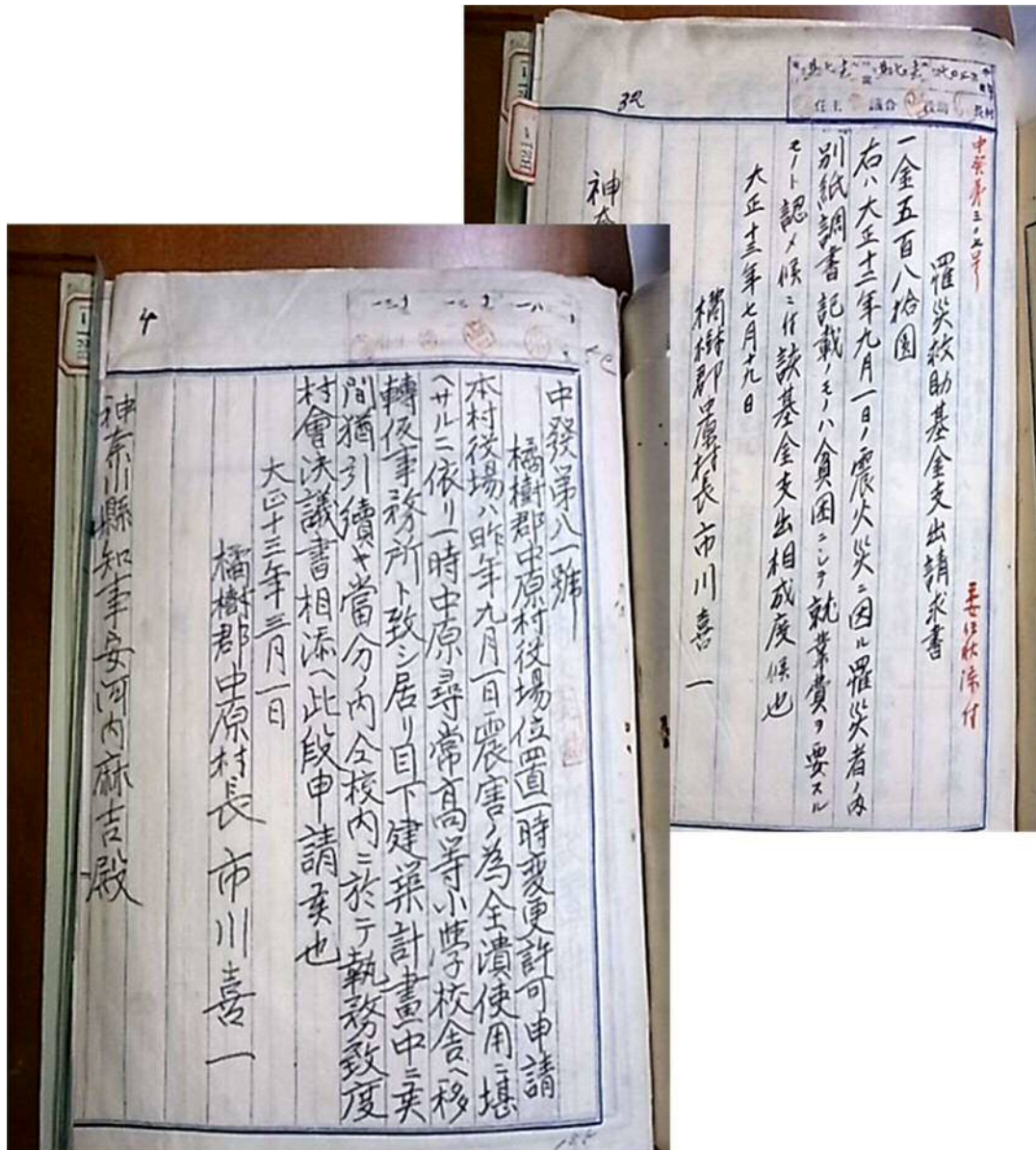


Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

第43号 平成31年2月



上の文書は、当館歴史的公文書「大正10～14庶務書類」に収められている大正13年に中原村長が神奈川県知事宛てに送付した通知の伺い文書です。内容は、前年の9月1日に発生した関東大震災により全壊した中原村役場を一時的に中原尋常高等小学校に移転することを申請する文書と住居が全壊または半壊した住民を援助するため、罹災救助基金の支出を請求する文書です。

中原村は明治22年に町村制の施行により上丸子村、小杉村、宮内村等6村が合併して誕生した村ですが、名前の由来となった中原街道は、江戸と中原御殿のあった平塚市中原を結ぶ江戸時代に整備された歴史のある街道です。

発行 川崎市公文書館

## シリーズ 古文書の言葉の謎に迫る！ No.6 「只様」

古文書の言葉シリーズ第6回目は、「只様」という言葉です。「只様」は、「普通のさま」のことを指す用語です。実は、この用語はものすごく長い間使われていた言葉でした。今回は、この「只様」について考えていきます。

「ただ」は、「只」や「唯」という字をあてますが、古くは平安時代から使われていた用語です。「ただなり」や「ただ人」のように「普通の様」を表します。また、「取り立てるほどでもない」という意味から、「何もしない」「むなしい」という意味の「徒」という言葉もありました。「まっすぐ」を表す「直」や「代価が不要なこと」を表す「無錢（ただ）」という意味もあり、実に多様な言葉として使われています。

近世になると、「只様」という言葉が目立ちます。「只様～仕候」などというように、文章の全体にかかる副詞として使われる例が増えていきます。多様な意味をもつ「ただ」が副詞として広く一般的に使用され始めたと考えられます。



このように、「只様」の「ただ」は長い歴史をもつ非常に重要な言葉でした。古文書に書かれている言葉がどのように現代に至るまでに使用されてきているのかを考えることは、日本語の成り立ちを考える上で非常に重要なことです。普段何気なく使っている言葉が、いつから使われ始めたものなのか考えてみると、案外面白い発見があるかもしれませんね。また次回！

## 片言隻句 — 中学生職場体験雑観 —

平成30年11月27日、当館では、井田中学校から7名の中学生を迎え職場体験実習を行いました。参加された皆さんは積極性に富み、非常にまじめな印象を受けました。

文書担当では、実習時間を前半の実務体験と後半の座学に分けて行いました。前半はマイクロフィルムを通じて生徒さん各々の生年月日と同日の新聞の閲覧体験を行い、市に関する過去情報に親しんでもらったほか、保存箱の運搬作業や公文書を実際に配架する作業といった実務の一部を体験してもらいました。保存箱の運搬作業では、保存箱の重量に驚いた様子で、一生懸命取り組む姿が印象的でした。

後半では、公文書管理についてのミニ講座を設け、担当職員から文書担当の業務について説明をしました。他にも「どのような所管課から文書が来ているのか」、「公文書館とはどのような施設なのか」、「公文書とはどのようなものか」といった基本的なものから「公文書のライフサイクルについて」、「知る権利とは何か」などといった公文書管理の要諦についても簡単なレクチャーを行いました。

座学については、公民を未学習の中学生には内容的にも少し難解だったようですが、皆真剣な顔で聴講していました。レクチャーする側にとっても学ぶことも多く、生徒さんと共に学んだ貴重な時間でした。





# シリーズ 歴史担当のお仕事

## 第6回「歴史担当の業務その3 資料整理（続）」

今回は「古文書」の「整理」作業中の①「現状記録」と②「燻蒸」について紹介しました。今回は「整理作業」の続きの③「台帳登録」と④「目録作成」について紹介します。

### ③「台帳登録」表1) 参照

「燻蒸」した資料は「台帳登録」の作業を行ないます。この作業は、「収集・受入」の資料群がいつ、誰から、どのように「収集・受入」を行なったのかを「資料群台帳」に記録するとともに、その資料群が当館のどこに、どのように保管されているのかも記録しておきます。こうすることによって、「公開作業」後に閲覧者（一般の方、研究者、職員）が閲覧を希望したり、展示・講座・研究などに使用したりする際に、容易に資料を閲覧に供せられるようになるのです。この「資料群台帳」は、**資料群の「家譜」及び「住所録」**とも言えるでしょう。

### ④「目録作成」表2) 参照

「資料群台帳」に登録された資料は、次に「目録作成」作業を経て、「閲覧・公開」されることとなります。目録作成作業は、先ほどの「資料群台帳」に登録された資料群一点一点を目録化（リスト化）する作業のことです。この作業を通して完成した目録を見ることで、資料一点一点または資料群全体がどのような性質を持っているかが一目瞭然となります。そのため、目録にはさまざまな項目を設定し、閲覧者に分かりやすい目録を作成することが重要となります。「資料群台帳」と同じく一点一点の資料もどこに、どのように保存しているのかを記録し、一点一点の資料を容易に閲覧に供せられるようにします。「資料群台帳」が「家譜」及び「住所録」であるならば、「史料目録」は「所持品一覧」や「家財リスト」のようなものと言えます。

これらの作業により、詳細な内容が明らかとなった資料群は「公開作業」を経て、閲覧者の利用に供せられることとなります。今回はこの「公開作業」について紹介します。

表1) 原資料群台帳。当館にどのような原資料がどの程度存在しているかが分かる。ある程度の文書群が把握できるような情報も記載している。

手続記	受入番	資料番	文書名	史料点数 (公開)	年代		閲覧 目録
					和暦	西暦	
贈	0	0	寄贈者・経緯不明資料	14	寛永2~昭和16	1625~1941	原文書版あり
贈	0	1	(多摩区)旧支所・出張所旧蔵資料(倉戸村関係・近世)→複製本名:旧支所・出張所資料(倉戸村関係)近世	613	慶応元~大正15	1865~1926	複製本目録参照
贈	0	2	(多摩区)旧支所・出張所旧蔵資料(倉戸村関係・近代)→複製本名:旧支所・出張所資料(倉戸村関係)近代	474	寛文5~明治5	1665~1872	原文書版あり
贈	17	1	(川崎市)富浜氏収集資料	91	天保15~昭和3	1844~1968	複製本目録参照
贈	19	1	(高津区)遠藤義久家旧蔵資料→複製本名:遠藤義久家文書	269	享保16~大正14	1731~1925	複製本目録参照
贈	27	3	(中原区)清田正一家旧蔵資料	61	明治38~平成27	1905~2015	原文書版あり
贈	28	1	(埼玉県久喜市)新土正雄氏旧蔵資料	2	(昭和期)		原文書版あり
贈	29	1	(富前区)早坂政利家旧蔵資料	10	文政12~文久3	1829~1863	複製本目録参照
託	18	1	(平塚市)松宮家所蔵資料	73	享保6~明治36	1721~1903	複製本目録参照
託	21	1	(麻生区)宮野明家所蔵資料	668	安永3~昭和44	1774~1969	複製本目録参照
託	27	1	(麻生区)萩生田家旧蔵(多摩市南野)宮野明家所蔵資料	48	明治12~昭和52	1879~1977	原文書版あり

\*原則複製本で閲覧していただきますが、字が半崩れにしている場合や形態・形式などを確認したいなどの特別な状況があった場合、歴史担当の立会いの下、原文書の閲覧は可能となっております。

表2) 原文書の目録。原資料群台帳内の個別史料群の中身をリスト化したもの。個別の資料群に何が存在しており、どのような構造をしているかがある程度推測できる。

資料番号	和暦	西暦	月	日	表題(内容など)	差出(作成)	受取	状況	数量	備考
1					袖(袖取木掬)における関係神々の祭り方につき)			状	1	一部破損、汚損
2					(絵図)過去の戦などの勝負の吉凶占いの書上]			状	1	
3					(絵図)曼荼羅を字であらわした書上]			状	1	
4					(護符)各種護符の写しの書上]			状	1	
5	文政12	1829	卯	上旬	信心仁徳両親古今集佐取所歌謡六歌仙(各所に頂いた歌の書上とその状況説明につき)	敬白必入カ		状	1	
6	丑		6	21	御籠(註)宣御吉福(神童についてを伝えたもの)	大聖院 彌濟	瀧千屋 おきくどの	状	1	一部破損、散し書
7	文久3	1863	10		病占(歳と名前から病についてを占った書上)		矢澤殿	状	1	
8					[覚(生業通段書上)]			状	1	
9					生業覚(生業の注文書上)			状	1	
10止			6	21	覚(生業受取につき)	屋号(ひとやねに三)印(羽州天童佐藤店)	上	状	1	

※表1)、表2)とも公文書館HPに掲載しています。併せてご覧ください。

## 掲 示 板

### 歴史講演会のお知らせ

歴史講演会を下記の要領で開催いたします。立教大学文学部教授の沼尻晃伸先生をお招きし、『「新興工業都市」としての近代川崎～その成り立ちと人々の生活～』と題し、ご講演いただきます。

日 時：平成31年2月24日（日） 14時～16時（開場：13時30分）  
場 所：川崎市総合福祉センター（エポックなかはら） 7階大会議室  
人 数（申込）：当日先着150人（会場で受付）  
受講料：無 料

### 平成30年度の講座について

今年度も各種講座を開催いたしました。10月以降に行った講座について報告いたします。詳しくは、市政だよりまたは公文書館のホームページでご確認ください。

### 歴史講座

#### 「村にあった鉄砲の話－王禅寺村でのできごと」（10月7日開催）

当館が所蔵する「志村家文書」から江戸時代後半に王禅寺村の村人が鉄砲を使ったことで招いた事件を取上げ、農村で鉄砲を所持する意味について考えました。アンケートでは、時代背景の説明が丁寧で、実際にあった事件を古文書から読み解いていく過程が、歴史を垣間見るようでおもしろかったとの感想をいただきました。



### 入門古文書講座(その2)

#### (11月24～12月22日 各土曜開催(全4回))

当館が所蔵する近世資料の中から「家別印鑑帳」を題材に、古文書の基礎知識やくずし字の読み方を一字一句丁寧に解説しました。今回もたくさんの応募をいただき、抽選となりました。アンケートでは約9割の方から講座に「満足」との回答をいただきました。



### 臨時休館のお知らせ

防災設備等館内工事のため、平成31年2月13日（水）～14日（木）を臨時休館とします。ご不便をおかけいたしますが、ご利用の際にはご注意ください。

## —川崎市に関わる「古文書」を探しています—

当館では川崎市に関わる江戸から昭和期まで含めた「古文書」などの歴史資料の調査・収集を行なっております。ご自宅に何なのかよく分からない、または、置場が無く困っている「古文書」などがございましたら、是非当館までご連絡の上、ご相談ください。歴史担当が懇切丁寧に対応いたします。なお、相談以外にも「古文書」の所在地についての情報提供も受け付けております。

現状、置場の問題、世代交代、引越しなどでそれら「古文書」が散逸してしまうことが多くなってきました。それを防ぎ、川崎市の歴史を語る「古文書」を守っていくため、皆様のご協力を何卒いただきたく存じます。

## 川崎市公文書館

◇開館時間：午前8時30分から午後5時まで

◇休 館 日：毎週月曜日／祝日法に定める休日（休日が月曜日に当たるときは火曜日も休館）／年末年始（12月29日～1月3日）

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1  
TEL 044-733-3933/FAX 044-733-2400  
E-mail 17koubun@city.kawasaki.jp  
ホームページ 「川崎市公文書館」で検索

